

湘南医療大学
ティーチング・ポートフォリオ

大学名: 湘南医療大学

所属 : 保健医療学部 看護学科

氏名 : 安部 仁美

作成日: 2024年9月30日

1. 教育の責任

湘南医療大学は、「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す。その考えのもと、保健・医療・福祉・教育を担当し、そして、社会へ奉仕することを目指す。すべての人の幸せに資するために、やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践、生命を全うしていただくための知識・技術の習得、およびその人らしさと個別性を尊重し敬愛する。」ことを理念におき、看護師・保健師および薬剤師、理学療法士・作業療法士を養成し、地域社会はもとより、国際社会の発展に寄与できる人間を養成することを目的とする。

教員の役割は、学生が医学および看護学分野において、広範な社会的視点を基盤に、多面的かつ包括的な思考を育み、課題の現状を維持・向上させ、または改善・解決するために、科学的根拠に基づくアプローチを自律的に実践できる人材を育成することにあると考えられる。そのため、看護師として必要な基礎的知識および技術を習得させることは、教育者としての重要な責務である。このような責任を果たすべく、私は看護学科の教員として、以下の科目を担当している。

<前期>

科目	学年	必修・選択	単位
老年看護学	2年	必修	1
ヘルスアセスメントⅢ	3年	必修	1
ナーシングスキルⅡ	2年	必修	1
看護基盤実習Ⅰ	1年	必修	2

<後期>

科目	学年	必修・選択	単位
老年看護学方法論	2年	必修	1
在宅・地域看護方法論	2年	必修	1
ナーシングスキルⅡ	2年	必修	1
ヘルスプロモーション実習	3年	必修	2
看護基盤実習Ⅱ	2年	必修	4

その他に取り組んでいる教育活動は、以下のとおりである。

- ・2学年のチューター
- ・FD委員会委員
- ・チーム医療論ワーキングメンバー

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

看護学科の教育は、広範な教養と深い倫理観を備え、科学的根拠に基づいた看護実践の基礎的能力を育成し、地域社会や保健・医療・福祉分野で貢献できる人材を養成することにある。看護学科のディプロマ・ポリシーは、①人間の命と個を尊重できる力 ②エビデンスに基づく実践力 ③援助的コミュニケーション ④チームで連携し協働する力 ⑤安全を保障する力 ⑥看護の発展に対応する力 である。これらの能力を習得することで、学生は看護対象者を全人的に理解し、適切な支援を行うことができる看護師として成長することを目指している。

私たちは、学生が社会や自然に関する広範な知識を身につけ、人間を深く理解し、患者の尊厳を守る高い倫理観を育むよう指導している。また、学生が確かな技術とコミュニケーション能力を身に付け、地域社会や多職種と協働して健康課題の解決に取り組むための適切なアプローチを学べるよう、教育に力を入れている。現代社会の健康課題がますます複雑化する中、多様なアプローチ方法を習得させ、社会における看護の役割や重要性を理解させることが教育の重要な目標である。さらに、看護師として、生涯にわたって学び続ける主体性と協調性を育むために、一人ひとりに対してきめ細やかな指導を行い、自己研鑽を続ける姿勢を育成している。これは、看護の現場で変化し続ける知識や技術に対応し、社会のニーズに応じて常に成長し続ける看護師を育てるために必要な視点である。

2) 理念をもつに至った背景

私が看護教育に対して抱いている理念は、広範な教養と深い倫理観を備え、科学的根拠に基づく実践力を持つ看護師の育成にある。特に、命と個の尊重、エビデンスに基づく実践力、援助的コミュニケーション、チーム連携と協働、安全の保障、そして看護の発展に対応する力を学生に養わせることを目指している。この理念をもつに至った背景には、臨床や産業保健の現場での豊富な経験が大きく影響している。

研究に関しては、博士課程で学んだ多様な研究デザインや手法を通じて、私は看護師の役割が単なる医療提供者に留まらず、社会的な健康課題に対する積極的な解決者であることを実感した。特に、中小企業における産業保健の普及推進は、私が特に関心を持つ研究テーマの一つである。中小企業は日本の労働人口の大部分を占めながら、労働災害や健康リスクに対する対策が大きく遅れています。この問題に対し、地域の諸機関と連携する保健師の活用や、多職種協働による健康支援方策の重要性を感じている。私は今後も教員として、地域の機関や企業と連携しながら、産業保健や災害対策に関する研究を進めることを目指す。

教育の現場においては、公衆衛生看護学の演習・実習指導の経験が、私の教育観に大きく影響を与えた。特に、地区診断の演習では、学生と共に地域の健康課題を抽出し、必要な支援策を考えるプロセスを共有した。この経験を通じて、学生の成長を直に感じ、彼らの疑問や達成感に触れたことが、私の教育に対する情熱をさらに深めた。学生の学びを支え、彼らが看護師としての資質を身につけていく姿を見守ることは、教育者としての大きな喜びである。

臨床看護や産業保健看護の現場では、多職種との協働が不可欠であり、その重要性を学生にも伝えていきたいと考える。現代の医療・保健分野では、リーダーシップとチームワークが求められており、看護師が他の職種と連携し、効果的にリーダーシップを発揮する力を持つことが重要である。教育の場でも、リーダーシップと協働のスキルを強化し、卒業後の現場で即戦力となる人材を育成することを目標としている。学生には、自己研鑽を続け、専門的成熟を追求する姿勢を持ち続けてほしいと期待している。

看護教育と研究の両面において、私は常に新たな課題に挑戦し、学生と共に学び続ける姿勢を大切にしていきたいと考える。

3. 教育の方法・戦略

学生が命と個の尊重に基づく看護を理解し、倫理的な判断を適切に行えるように指導する。倫理的判断は看護師にとって基盤となる能力であり、全人的に対象者を評価する上で不可欠である。このため、講義や事例を通じて、患者の権利や尊厳を守る重要性を強調し、具体的な看護実践における倫理的課題に対する対応方法を教える。また、ディスカッションやケーススタディを通じて、学生が現実の状況でどのように倫理的な判断を行うべきかを考え、他者と共有する機会を提供する。

次に、エビデンスに基づく実践力を育むために、科学的根拠を活用した看護実践を強調する。学生には、最新の研究結果や臨床データをもとに看護計画を立案し、実行できる能力が求められる。そのため、看護理論と実践を結びつけるために、事例を用いた演習を導入し、具体的な看護アプローチを実際の現場でどのように応用するかを体験させる。また、オンデマンド教材やビデオ教材を活用することで、学生は看護実践の場面を具体的にイメージし、洞察し、科学的根拠に基づくアプローチを強化することができる。

また、看護におけるコミュニケーション能力やチーム連携の重要性を理解させるため、実習や演習では多職種連携に焦点を当てている。看護師は、医師や他の医療従事者、保健職・福祉職との連携が不可欠であり、その協働能力を育むための教育が重要である。私は、チームでのディスカッションやケーススタディを通じて、学生に協力して課題解決に取り組む機会を提供する。さらに、リーダーシップの重要性を強調し、学生が将来的にチームを統率し、多職種連携を促進する役割を担えるような教育を行う。

さらに、学生が卒業後も自己研鑽を続け、生涯にわたって学び続ける姿勢を持つことを奨励する。看護知識・スキルは常に進化しており、学生が自己成長を続けることが求められる。そのため、一人ひとりの学習進度や個性に合わせたきめ細やかな指導を行い、個々の学生が主体的に学びを進められるようサポートしている。これは、単なる知識の詰め込みではなく、学生が自ら問題を発見し、解決策を見出すプロセスを重視する教育方法である。

これらの戦略を通じて、私は学生が看護師としての専門的な能力と倫理的な成長を同時に遂げられるよう支援している。常に新しい教育方法を模索し、学生が看護師として自信を持って現場に立てるよう、全力でサポートする。

4. 学習成果

本学に着任して半年であるため、以下の学習成果については、教育場面で学生の言動・表情・態度等から得た主観的に把握した定性的な成果であり、今後は定量的な教育評価も実施していく必要がある。

- ✓ 学生たちは看護の倫理的側面や実践力を効果的に学び、実際の現場での適応力を高めることができた。
 - ・学生の理解度の向上
 - ・倫理的判断力の醸成
 - ・エビデンスに基づく実践力の強化
 - ・コミュニケーション能力やチーム連携の向上
- ✓ 倫理的判断の基盤を構築することができた。
 - ・患者の権利や尊厳を守る重要性を理解
 - ・倫理的課題への対応能力が向上
 - ・講義や事例を通じて、患者の多様な背景やニーズに配慮
 - ・ケーススタディを用いた授業で、現実の状況を模したシナリオを通じて倫理的選択の練習を実施
 - ・自信を持って倫理的判断を話せるようになる。
- ✓ エビデンスに基づく実践力の強化することができた。
 - ・最新の研究結果や臨床データをもとに看護計画を立案・実行
 - ・事例を用いた演習で看護アプローチの実践
 - ・オンデマンド教材やビデオ教材を活用し、具体的な看護場面を視覚化
 - ・根拠に基づく判断を行う能力が身につく
- ✓ コミュニケーション能力とチーム連携の重要性に気づくことができた。
 - ・多職種連携の重要性を強く認識
 - ・チームでのディスカッションやケーススタディを通じて協力して課題解決能力を育成
 - ・リーダーシップの重要性を理解し、将来的にチームを統率する姿勢が育まれる。
- ✓ 自己研鑽の重要性を感じてくれた。
 - ・個々の学習進度や個性に合わせた指導で学生の意識が向上
 - ・学生は主体的に学びを進める意欲を高める。
 - ・問題発見や解決策を見出すプロセスを重視し、倫理的成長を遂げる。
- ✓ 教育者としての喜びを感じた。
 - ・学生が看護の専門家として成長し、社会に貢献できる人材へ育つ姿を見ることができる。
 - ・今後もこのアプローチを深化させ、さらに多くの学生が倫理的で専門的な看護師として活躍できるよう努める。

5. 改善のための努力

- ・ 教育方法から得られた成果はあるが、課題も浮き彫りになった。
- ・ 学生の多様な学習スタイルに対応するための教材のさらなる充実が求められている。
- ・ 倫理的判断力やエビデンスに基づく実践力を深めるため、具体的なフィードバックの提供が必要である。
- ・ チーム連携の実践を強化するため、多職種との連携を実際の実習で体験できる機会を増やす努力が求められる。
- ・ これらの課題に対処することで、学生の学びをより豊かにし、看護師としての成長を促進したい。

6. 今後の目標

短期目標

- ・ 学生の多様な学習スタイルに対応するため、教材のバリエーションを増やし、異なる学びのニーズに応じた支援を強化する。
- ・ 倫理的判断力とエビデンスに基づく実践力を深めるため、具体的なフィードバックのメカニズムを確立し、定期的に学生に提供する。
- ・ 多職種との連携体験を実習に組み込み、チーム連携の重要性を実感させるためのワークショップを開催する。

長期目標

- ・ 学生が自ら問題を発見し、解決策を見出す力を養う教育プログラムを確立し、看護実践における自己研鑽の文化を育てる。
- ・ 学生の倫理的判断力や専門的能力を評価する基準を整備し、持続的な成長を促すための教育体系を構築する。
- ・ 多職種との連携を強化し、地域社会における健康課題解決に貢献できる看護師を育成するため、地域の医療機関と共同でプログラムを開発する。